

第5号
2005年7月25日発行

藤沢市文書館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町12-6
電話 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172
URL <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



絵ハガキ「江之島海岸の景」 大正初期頃

海水浴は夏の風物詩であり、7月ともなるとテレビなどでしばしば海水浴場のにぎやかな模様が紹介されます。なかでも藤沢市内の片瀬海岸は、代表的な海水浴場としてよく取り上げられます。

片瀬海岸での海水浴については、明治初年から外国人によって行われていましたが、地元の人々により鵠沼海水浴場が開設されたのは明治19(1886)年7月のことです。当時の海水浴は医療行為の一つとされ、波の荒い大磯などが適しているとされました。やがて遠浅で波が静かな片瀬海岸や鵠沼海岸の安全性が喧伝されるようになります。また、近隣には旧来から来遊の多い江の島や遊行寺、龍口寺などの史跡が点在していることもあり、海水浴がレジャーの一環であるという風潮が作られていました。しかも江の島には皇室の行啓がたびたび行われたことから、海水浴に高級な避暑としての性格も付随するようになり、湘南地域の上流階級的色合いが強まりました。そして江ノ電が明治35(1902)年9月に開業することで、より多くの海水浴客が訪れるようになったのです。(中村)

* 目次 *

「江之島海岸の景」(View of Enoshima) ······	1
連載「藤沢山日鑑茶話」第4回 ······	2
藤沢市の行政文書と文書館との関わり ······	3
連載「古文書の読み方」第5回 ······	4
編集後記 ······	4

連載 藤沢山日鑑茶話

第4回 遊行寺 銘菓のしおり

弘化2年(1845)	弘化3年(1846)	弘化4年(1847)
1/5・20 餅	1/10 干柿・練羊羹	1/1 串柿
1/22 求肥餅・練羊羹	2/2 水飴	1/17・25 よふかん
2/6 甘雨梅	2/14・24 団子	2/14 团子
2/10 たんこ(団子)	3/9 養老糖 あられ菓子	2/19 月之雫
2/11 草餅	3/13 ようかん	3/27 品川菓子
2/14 团子	3/26 練羊羹	4/1 越之雪
2/15 浦賀名産あめ	4/2 御所落雁	6/7 蒸くわし(菓子)
2/18 白雪菓子	4/6 干柿	7/5 干菓子
2/26 よふかん(羊羹)	4/7 团子	7/6 砂糖漬
3/20 ぎふひ(求肥)	4/12 羊羹	7/11・12 团子
3/25 羊羹・寒紅梅	4/28 干菓子	8/14 益田饅頭
4/4 牡丹餅	4/18 水飴	8/15 团子
4/5 水あめ	5/29 小夜中山水あめ 麦香煎・金玉糖 南部ふとふ香 八重なりかん	8/16 羊羹
4/6 よふかん 牡丹餅		9/12 まんぢう
4/7 团子		9/13 团子
4/10 和三品(三盆)		9/24 松茸砂糖漬 甘雨梅
4/17 常陸国産汐釜	6/23 餅菓子	10/14 饅頭
4/22 水よふかん	6/24 水あめ	11/1 洋浜
4/24 かた栗	7/5 上干菓子	11/26 祝の餅
5/8 翁飴	7/12 团子	12/4 切餅
5/20 寒中曝餅	7/17 養生糖	12/25 汁粉餅
5/21 薄荷氷	7/28 金玉糖	
5/23 氷餅・水飴	7/29・8/6・15 团子	
6/20 蒸菓子	8/19 金米糖	
7/5 干菓子	8/22・23 水あめ	
7/12 团子	9/13 团子	
7/18 水あめ	10/10 むし(蒸)菓子	
8/15 团子	11/19 亀の甲せんべい	
8/19 金玉糖・唐三盆 饅頭	12/10 串柿	
8/20 よふかん	12/11 安倍川餅	
8/21 よふかん	12/13 甘酒	
10/25・12/13 甘酒	12/25 汁粉餅	
12/25 汁粉餅	12/28 串柿	

茶話にはお菓子がつきもの、という訳で、今回お菓子の話です。

日鑑には四季折々のお菓子が記されています。それはなぜか。来訪者の名前とともに、持ってきた品々も記録されるからです。また、遊行寺でもお菓子が作られ、仏様や寺内の人々、お客様に供されました。

どんな種類があったのか、『藤沢山日鑑』第22巻(弘化2-4年:1845-47)に出てくるお菓子を、表記のまま一覧にしました。単に「菓子」とあるものは落としてあります。

もちろん、材料に米や麦、砂糖、果物などを使った、素朴なものばかりで、変わったところでは、松茸砂糖漬などというのも見えます。

そうしたなかには、今も銘菓として作り続けられているお菓子も見られます。例としては、月之雫(山梨)や越之雪(新潟)、小夜中山水あめ(子育飴 静岡)、亀の甲せんべい(神奈川)などがあげられます。このうち、越之雪は、現長岡市石内の極楽寺の檀家が、月之雫は、現甲府市太田町の一蓮寺の近くに住む人が、手土産として持ってきたのですが、そのほかは、その地元の人が持ってきたわけではないので、道中で購入されたものなのでしょう。

時宗の総本山として、各地から末寺や参詣客などが来るので、遊行寺のお坊さんたちは、居ながらにして諸国銘菓を味わうことができたわけです。嬉しい到来物だったに違いありません。

ただ、こうしたいわゆる「銘菓」は、古い日鑑(第1巻、正徳1-延享2:1711-45)には登場しません。砂糖が普及する江戸中期以降、だんだんと創作され、有名になっていくのでしょうか。

遊行寺で作られるのは、8月15日と9月13日の団子です。これは月見団子で、お月様に供えます。また、12月25日は餅つきが行われ、汁粉餅が振舞われます。

なお、果物も「水菓子」といわれましたが、紙面の都合で加工品以外は一覧には掲載しませんでした。夏は瓜類・秋は梨・葡萄、冬は蜜柑・柿などが定番で、季節が感じられます。(酒井)



(現在売られている「月の雫」)

藤沢市の行政文書と文書館の関わり

文書館というと、和紙に筆で書かれた江戸時代やさらに昔の文書を思いうかべる方が多いかと思います。

しかし藤沢市文書館では、そうした古文書だけではなく、藤沢に縁のあるお宅で保管された明治以降の日記や手紙・図書、そればかりでなく役所で作成された、明治から現在までの行政文書も保存しています。

行政文書とは何でしょう？

毎日、役所の様々な部署ではたくさんの文書が作成されています。例えば、事務作業に必要な筆記具やコピー用紙の購入といった日常の細々したことから、道路の舗装・学校の建築といった公共事業の実施まで、役所が何かをしようとするときは、重要な事項ほど多くの人の供覧を得なければ実現することはできません。言い換れば、文書を見れば役所でどのような仕事をしているかを、誰でも確認することができるのです。こうした文書が「行政文書」・「公文書」と呼ばれるものです。



行政文書は誰にでも閲覧できますか？

行政文書を閲覧することができる者は、業務に携わる職員ばかりではありません。個人情報が含まれているなど一部の資料を除き「藤沢市情報公開条例」に基づいて、だれもが閲覧することができます。閲覧可能な行政文書の目録は、市役所のホームページで公開している他に、情報管理課や文書館に備えてあります。行政文書を通じて現在の藤沢市の姿を確かめることができます。閲覧をご希望の場合は、情報管理課へご連絡ください。(Tel 0466-50-3567)

文書館の役割は何でしょう？

だれもが分かりやすいように文書を作成し、また、それを保管するルールが定められています。「藤沢市行政文書取扱規程」がそれにあたります。文書館では毎日作成される大量の行政文書を、このルールに従って一括して管理・保存しています。情報公開の目録も、文書館で作成した管理用の目録が元になっています。

すべての行政文書を文書館に残しておくことはできません。保存年限が過ぎた行政文書は廃棄されます。しかし、役所の業務で必要がなくなったからといって行政文書の価値がなくなるわけではありません。その時々の藤沢市の姿を未来に伝えるための証拠として、特に重要な行政文書を選択し、保存することも文書館の重要な仕事の一つです。こうして保存された行政文書を「歴史的行政文書」といいます。

歴史的行政文書についても、行政文書と同じように目録を作成して、文書館において閲覧することができるよう整理・保存しています。

毎日作成される大量の行政文書の管理を文書館が一括して行い、ここから歴史的行政文書の選定をすることは、藤沢市の特徴であり、他の市でもあまり例を見ない誇るべきシステムなのです。



歴史的行政文書はどのようなものでしょう？

歴史的行政文書として保存する文書は、次の10種類になります。

1. 役所内の組織やしくみの新設、変更、廃止に関する文書 「事務分掌規定」など
2. 藤沢市の政策や事業を具体的に表す文書 「共同漁業権漁場計画書」「ふじさわ市民まつり」など
3. 条例・規則など例規の改廃を記す文書 「条例改正」など

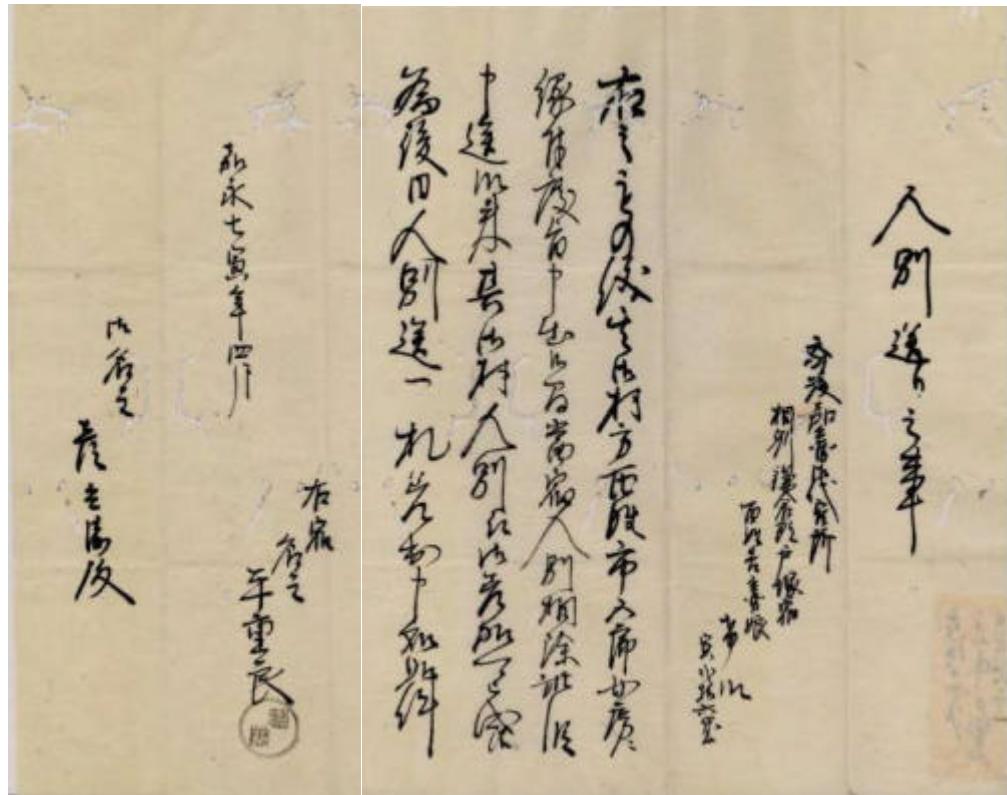
4. 監査に関する文書 「定期監査」「決算監査」など
5. 調査や統計、報告に関する文書 「毎月勤労統計調査」「公共用水域化学物質調査結果」など
6. 褒賞や表彰に関する文書 「優良事業主小売店舗表彰」「教育文化貢献者表彰」など
7. 役所内に設けられた、委員会・審議会の記録 「教科書採択協議会・審議会」「畜産振興審議会」など
8. 請願や陳情に関する文書 「請願」「市長陳情」「下水道予算に係る陳情要望活動」「苦情要望処理表」など
9. 文書に添付された行政刊行物 「航空機騒音測定調査結果報告書」など
10. その他 広報写真、工事写真など

藤沢市文書館は藤沢の記憶装置です

藤沢市文書館では役所の各部署で作成された行政文書を定期的な引き継ぎにより受入して集中管理しています。これにともなって行政文書の目録を作成し情報公開に備えています。同時に、保存年限が過ぎた行政文書の中から「歴史的行政文書」を選択し、整理・保存しています。行政の説明責任が問われる昨今、現在の、そして未来の皆さまへ藤沢市の説明責任を果たすため、藤沢市文書館は行政文書を大切に保存しています。(山田之恵)

* * * * *

連載 古文書の読み方 第5回



この史料は、嘉永7年(1854)戸塚宿の名主から遊行寺領西村(現西富)の名主へ送られた婚姻による宗門人別帳の加除に関する通知文書です。読み方・解説は次号に掲載します。(石井)

編集後記

藤沢の鉄道史について、ひとくちメモ。 明治20年(1887)7月、東海道線の横浜・国府津間が開通して、藤沢停車場(藤沢駅)が開業しました。そして、江ノ島電鉄(江ノ電)が藤沢から片瀬まで開通したのは、明治35年(1902)9月です。その時は駅名も「片瀬」でした。さらに、小田原急行電鉄の江ノ島線が延長されたのは、昭和4年(1929)4月のことです。この鉄道3線の開通により現在の海水浴場としての隆盛につながっていくのでした。その後、昭和22年(1947)4月に江の島を含めた片瀬町が藤沢市に合併されました。この頃の藤沢の歴史については、今年4月に刊行された、(続)藤沢市史別編2『ニュースは語る20世紀の藤沢』に詳しく掲載されています。(山田実)